

# けんこう静岡

第151号

令和4年  
(2022年)  
10月1日(土)

季刊 1部50円 年200円  
(送料税込)

発行所  
公益財団法人 静岡県予防医学協会  
https://www.shsa.net/

(静岡事務所)	〒421-1292	静岡市葵区建徳1-3-43	(054)278-7716
(藤枝健診センター)	〒426-0053	藤枝市善左衛門2-11-5	(054)636-6461
(総合健診センター)	〒426-8638	藤枝市善左衛門2-19-8	(054)636-6460
(沼津事務所)	〒410-0011	沼津市岡宮1210-1	(055)921-1934
(浜松健診センター)	〒435-0006	浜松市東区下石田町951	(053)422-7800

発行責任者 石黒 満 印刷 松本印刷機

## お見知りおきください

# 静岡社会健康医学大学院大学です！

静岡社会健康医学大学院大学学長・理事長 宮地良樹

### 社会健康医学とは？

私たちの静岡社会健康医学大学院大学は昨年4月に開学したばかりの新参者ですが、医学部のないところではじめて「医学」という名前が付いた、単科の、しかも学部のない大学院だけの珍しい大学です。社会健康医学という言葉は聞き慣れないと思いますが、従来の公衆衛生学に新しい学問ジャンル（私たちの場合はビッグデータサイエンスやゲノムコホート研究など）を加え、皆さんの健康増進と健康長寿の延伸を図るべく最先端の研究を推進するとともに、その成果を社会に還元して社会実装をめざそうというミッションを帯びた新しい学問体系です。英語ではスタイル・オブ・パブリックヘルス（SPH）といいますが、米国では100年以上前から公衆衛生研究の中心的役割を果たしてきました。いま北米には67ものSPHがあり、最も古いジョンズホプキンス大学では学生が2600名（その半数は医師）、教官が500名もいる一方で米国の臨床研究の底力を見せつけられます。昨今のコロナ禍対策で最も社会から求められていたのは実はこの公衆衛生の専門家ではなかったかと思えます。SPHからはマスター・オブ・パブリックヘルス（MPH）という修士号を持った専門家を輩出しています。遅ればせながら日本でも2000年にはじめて京都大学にSPHが開設されました。その後、国内各地に約20校のSPHが誕生しましたが、静岡社会健康医学大学院大学（静岡SPHと呼んでください）は単科のSPH大学院として日本初、中部地区でも初めての本格的なSPHです。いま35名の大学院生が学んでいます。ほとんどが実務経験を有する医療専門職でその半数が医師です。皆さん多忙な仕事を続けながら金曜日と土曜日に来学あるいはオンラインで授業を受け、自分のフィールドで見つけた

医療上の課題を解決しようと日々研究に励んでおられ、その熱意には頭の下がる思いです。

### 静岡県の健康課題

いま私たちが解決しようとしている静岡県の健康課題は大きく分けて三つあります。一つは超高齢社会を迎える中で依然として「平均寿命と健康寿命のギャップが埋まらない」ことです。健康寿命というのは健康上の問題がない状態で自立して日常生活を送れる期間のことです。平均寿命は延びても、人生最後の約9年間、多くの人が医療や介護に依存した生活を送っている実態があり、平均寿命と健康寿命とのギャップをなかなか埋められません。「幸せを感じる期間」（幸福寿命）を考えると、このギャップを是非でも短縮しなくてはなりません。私たちは静岡県の国保データベースから約220万人分のレセプト・健診・介護のデータを使用する許可をいただき、データサイエンスを駆使してこの課題を解決すべくビッグデータ研究を進めています。二つ目はメタボや高血圧などの有病率を見ると静岡県内に大きな地域格差があることです。特に南伊豆地域では高齢化が進み、高血圧が多いことが分かっています。集団を長期にわたって追跡することで病気の発症や予防を遺伝子レベルで調査する研究をゲノムコホート研究といいますが、私たちは賀茂地区で住民の皆さんの詳細な健診をこれから長期間実施することで認知症やフレイルを含めた遺伝子レベルからの解明をめざして研究を開始したところ。時間はかかりますが、この研究手法で静岡県民の健康課題の解決と人生百年時代への新たなアプローチを模索しています。三つ目の課題は静岡県の慢性的な医師不足です。人口360万人の静岡県には浜松医大しか医学部がありませんが、これはほぼ同じ人口を擁する四国四県に4つも医学部があるのと好対照で

### 先制医療への貢献

私は高校までを静岡市で過ごし、京都大学名誉教授となるまでの約50年間、医学研究に専念してきましたが、「医療や健康をめぐる諸問題は医学や生物学だけでは解決しない。健康格差の解消には生活環境や経済格差など社会的決定要因に介入しなければダメだ」と言うことに気づきました。それが古希を迎えて故郷静岡に戻り、社会健康医学研究に没頭しようと思った大きな動機です。静岡SPHは新しい研究手法を開拓し、皆さんの行動変容を支え、社会全体の健康課題の解決のためにSPHが何をすべきかを探索し続けます。いま本学には多様な医療専門職の方々が同じ学び舎で相互に刺激と切磋琢磨をしながら研究に励んでいます。病院におけるチーム医療と同じで、お互いの専門性をリスペクトしながらフラットな関係を維持しつつ研究を推進する本学の姿勢はまさに大学院の新しい「かたち」と自負しています。社会健康医学の手法で病気を発症前に防ごうとする「先制医療」に貢献するのが目下の私の夢です。

### 今後の医療の変容と本学の役割

これからますます高齢化が進む中で疾病構造や医療需要が大きく変容します。これまでの単一臓器の病気を治すことから、動く・食べる・交わるという生活機能の低下によるフレイルや誤嚥性肺炎、認知症などの負のスパイラルを断

ち切ることを医療の標的にすべき時代が到来します。そのために社会健康医学に何ができるかをみなさんと一緒に考えて参りたいと思います。

静岡社会健康医学大学院大学というのはいかにも覚えにくい長い名称ですが（本学のポスターを添付します）、是非皆さんと手を携えて静岡県のみならず世界の健康課題に挑戦していきたいと思しますので以後お見知りおきいただきますようよろしくお願い致します。



**静岡社会健康医学大学院大学**  
所在地：〒420-0881 静岡市葵区北安東4丁目27番2号

**お問い合わせ**

静岡社会健康医学大学院大学 教務課  
TEL. 054-295-5401 FAX. 054-248-3520  
E-MAIL. info@s-sph.ac.jp  
火曜～土曜 8:30～17:15

ウェブサイト  フェイスブック 

<https://s-sph.ac.jp>

静岡SPH



**年一回は健康チェックを！** 健康はあなたの財産です すこやかな明日のために

**人間ドック 脳ドック ものわすれドック**

総合健診センター ヘルスポート  
〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8  
TEL 054-636-6460  
FAX 054-636-6465  
☎ 0120-39-6460